



孟子フィールドワーク 里山体験

今年は、梅雨入りが5月16日と大変早くなりました。天気が心配されましたが、さわやかな日ざしのもと、26日（水）に中学2年生を対象に孟子フィールドワークを実施しました。新型コロナウイルスの影響も心配されましたが、感染対策をとりながら、無事に終えることができました。



孟子の池に咲くハス

当日は、池周辺の水生昆虫や魚を捕まえ観察したり、植物の観察や、昆虫を採ったりして、一日里山の自然を満喫しました。講師として環境学習アドバイザーの有本先生や県立自然博物館学芸員の内藤先生・松野先生をお迎えし、専門的な指導を受けるとともに生徒たちは熱心に耳を傾け、メモをとっていました。近年、日常的に自然に触れる体験を経験している生徒が減少しているようです。フィールドワークの大切な目的は、トンボやカエル・ザリガニ・ドジョウを捕えたり、生き物に直接触れたりする経験です。講師の先生方も、話はできるだけ短く、あとはそれぞれの興味に従って自由に観察することを重視してくれています。教室での学習では決して体験できないことを持ち帰り、普段の学習内容と繋がるときに、理解が深まっていきます。今後の学習の深まりを期待しています。なお、今後環境の時間で、この活動をポスターにまとめて展示する予定です。



有本先生の生物観察



植物の観察



池の中には何がいるかな

第1回定期考査と全国学力・学習状況調査を行いました

5月19日（水）から3日間、第1回定期考査を行いました。定期考査は年間5回行われ、今までの学習を振り返るとともに、学力の向上と定着をはかる大切な機会です。テストは、返却された後がとても大切です。間違った問題については、理解できるまでやり直し、自分の弱点をなくしながら学習を進めることが必要です。学習成果を振り返り、今後の学習にいかしていきましょう。結果は、6月上旬に個票を配布する予定です。

また、27日（木）には、中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査を行いました。この調査は、文部科学省が行うもので、全国の中学生の学力・学習状況を把握・分析することから、教員の授業改善を図るためのものです。結果の公表は、8月下旬以降になる見込みです。

